



学校だより

横浜市立釜利谷中学校
発行日 令和6年3月1日(金)
発行者 学校長 木村 典明
所在地 金沢区釜利谷南3-5-1
電話 784-7311 FAX 783-9762

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/kamariya/>

学校教育目標

人との関わりを大切にします。(徳、公)
生きるための学びを大切にします。(知、開)
心と命を大切にします。(体、徳)

知・・・生きてはたらく知
徳・・・豊かな心
体・・・健やかな体
公・・・公共心と社会参画
開・・・未来を開く志

『ブラック・ジャック』に学ぶ

校長 木村 典明

2年前に、本校の学校図書館が企画した「先生が薦める一冊」の紹介で、私が紹介させてもらったのは、手塚治虫さんの漫画「ブラック・ジャック」(以下、B・J)でした。子どものころ夢中になって読み、色々と学ぶことが多かったので、紹介文も「大切なことはB・Jから教わりました」と思いを込めて書きました。現在も全巻を本棚に大切にしまっています。

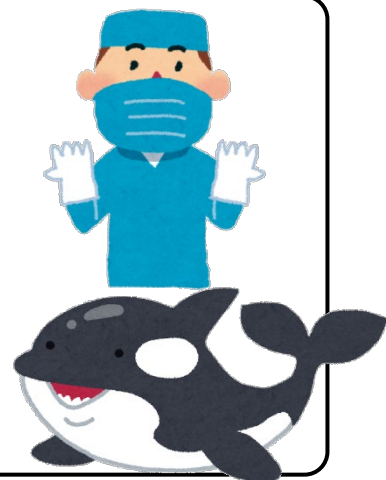
ご存じない方に簡単にB・Jを紹介しますと・・・。医師免許は持っていませんが、どんな病気もケガも治すことができる天才外科医B・Jの様々な人たちとの人間模様を描いた医療漫画です。訳ありの患者を助けて高額の治療費を請求するので、悪人かと思いきや・・・というお話です。読み切り連載物で、全部で242話もあるのですが、全編にわたって一貫しているのは「命」をテーマにしていることです。命を尊いものとして必死になって生きる人には優しさを示し、逆に命を粗末にする者には厳しく制裁を加えます。そんなB・Jの姿から命の大切さを子どもながらに学ぶことができました。

242話の中で、特に印象深く残っているお話があります。それは「シャチの^{うた}詩」という作品です。

(シャチの詩 あらすじ)

開業したばかりのB・Jの最初の患者は人間ではなく、傷ついたシャチでした。病院近くの入江の浅瀬で横たわるシャチを見つけて治療をすると、シャチはお礼に一粒の真珠を口にくわえて持ってきました。でも、治療をした後もシャチはまたケガをして入江に戻ってきます。B・Jは何度も繰り返し治療してあげます。すると、そのたびにシャチは真珠をくわえて持ってくるのでした。やがて、B・Jとシャチとの間には友情が芽生え、B・Jはシャチに「トリトン」という名前を付けました。

ある日B・Jは街で、人間に迷惑をかけるシャチがいるのでシャチ退治をする、という話を聞いてしまいます。さらには、人を襲ったとも・・・。きっとトリトンの仕事です。トリトンは、シャチ退治から逃れて傷ついた体で何度も入江に現れます。B・Jが姿を見せると、トリトンはうれしそうに口にくわえた真珠を出して、治療を求めます。でも、人を襲ったトリトンを救うわけにはいきません。見て見ぬ振りをせざるを得ないB・J。そして数日後・・・キラキラ光る真珠に囲まれながらトリトンは入江で息絶えていたのでした。

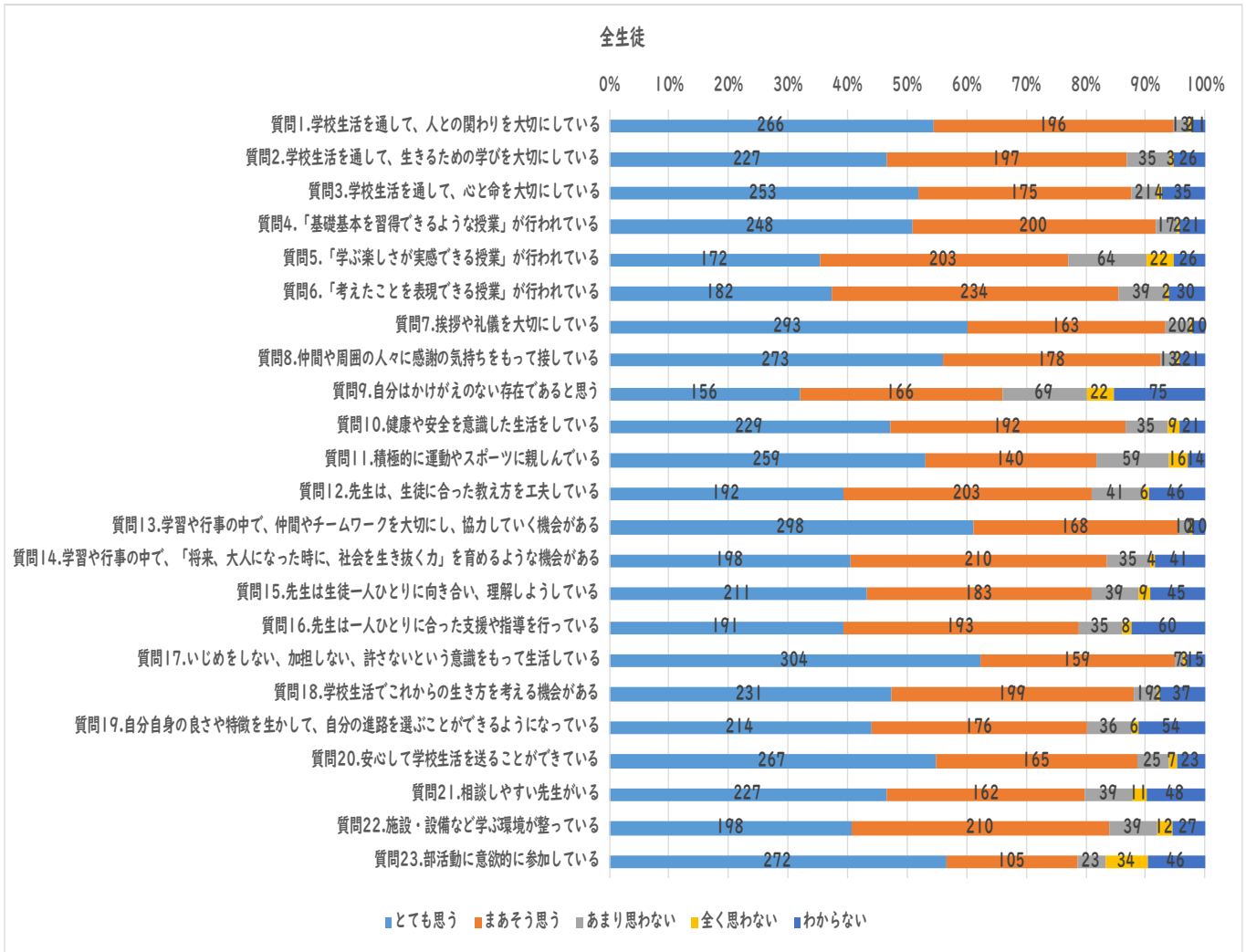


動物の命もまた大切であることに変わりはありません。でも、人の命と比べてしまったら話は別です。それは分かっているのですが・・・。B・Jとトリトンの友情が深まる一方で、人間社会の過酷な現実が両者の絆を引き裂いていくこの物語から、子どもながらに漠然とですが、命の尊さと儚さを感じ心が揺さぶられました。

少々重い話になってしまいました。命ほど重くはないものの、選択肢がいくつかあって、どちらも正しく思われて、判断や選択に悩むのは日常ではよくあることです。子どもたちの心に揺さぶりをかけ、複数の結論の間で何が最適解なのかを考えさせることは倫理観を養うために大切なことだと思います。本校の生徒たちには、学校生活の中で悩み、葛藤することがあっても自分なりの考えをしっかりとらせる人、例えその判断で失敗を感じたり後悔をしたりしたとしても、めげずに前を向いて歩いていける人になってほしいと思っています。

◇今年度の成果について —学校評価アンケートより—

【生徒】の回答



昨年までのコロナ禍の中での生活からほぼ通常通りの状態に戻り、学校でも以前の様な授業や行事を行うことができました。その中で、学校教育目標である質問1「人との関わりを大切にします」質問2「生きるための学びを大切にします」質問3「心と命を大切にします」の3つに関わるアンケート結果について「そう思う」「まあそう思う」といった肯定的な意見が90%近い回答となっており、日々の授業や行事の中でこれらの教育目標を大切にしながら生徒が学校生活を過ごし、成長している様子が分かります。特に質問1「学校生活を通して人との関わりを大切にしている」の設問に対しては、95%の生徒が肯定的な回答をしており、さらに質問8「仲間や周囲の人々に感謝の気持ちを持って接している」質問13「学習や行事の中で、仲間やチームワークを大切にし、協力をしていく機会がある」の設問に対しても90%以上の生徒が肯定的な回答をしています。これは、行事が通常通り実施できたことにより、より学級で協力したり仲間と力を合わせたりする機会が増え、人との関わりをの良さを実感できたからではないかと考えられます。今後も子どもたち同士の関わりを大切に、生徒が互いに貢献することや感謝することに喜びを感じられるような教育活動の充実を図っていきます。

昨年度に引き続き質問17「いじめを許さない、加担しない、許さないという態度をもって過ごしている」の設問に対しては95%近い生徒が肯定的な回答をしています。いじめを許さない風土が学校の中で出来上がっている一方で質問9「自分はかけがえのない存在である」という設問に対しては65%程度にとどまり、昨年度よりは上昇しているものの、まだまだ子どもたち一人ひとりの自己肯定感が高い状況であるとは言えません。また質問20「安心して学校生活を送ることができている」の設問に対しても昨年度より若干肯定的な回答が下がっており、日々の学校生活の中で子ども同士の関わりが活発になっていく中で、うまく自分を出せず悩みを抱えたり衝突をしたりする生徒も少なからずいるものと考えられます。教師は子どもたち全体の活動を支援していくことはもちろんですが、一方で個々の生徒の悩みや思いに心を寄せていくことも大切です。今後もそれぞれが自尊感情を高められるような場面を設定しながら、丁寧に一人ひとりの生徒と向き合っていきます。

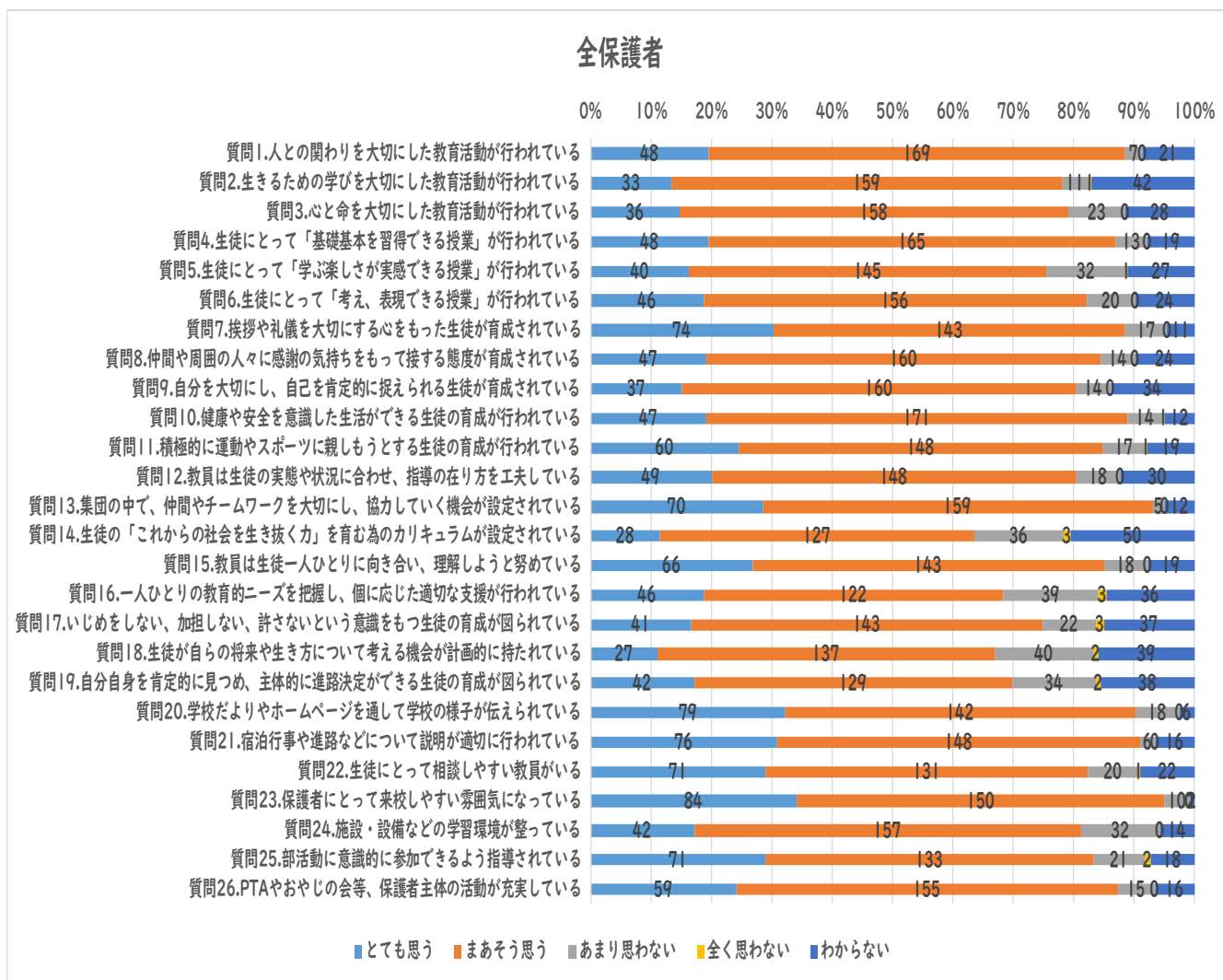
学習については、質問4「基礎基本を習得できる授業が行われている」という設問に対し90%の生徒が肯定的な回答をしています。また質問6「考えた事を表現できる授業が行われている」という設問に対しても昨年度よりも肯定的な回答が多くなっています。これらから、教師が基礎基本の定着を目指しながらも一人ひとりが考え表現できる授業展開を意識しているということが読み取れます。一方で質問5「学ぶ楽しさを実感できる授業」の項目については若干ですが肯定的な回答が減りました。特に下の学年で低い傾向にあり、小学校に比べ1時間で習得しなければならない学習量が増えていることや学ぶ内容が高度になっていることから、学ぶ楽しさを味わえるまでの余裕がまだ持てないといったことが考えられます。小学校から中学校への学習の接続を丁寧に行いながらも、子どもたちが学ぶことを「楽しい」と実感できる授業の工夫を行っていきます。

進路指導・職業指導については、今年度2年生で4年ぶりに職業体験を実施することができました。それらの成果か、2年生で質問18「学校生活の中でこれからの生き方を考える機会がある」との設問に対しての肯定的な回答が80%を超えました。これは1年生への同じ設問の回答よりも大きく肯定的な回答が上回っており、やはり実際に体験をし、働く人々に関わることで子どもたちの将来への関心は大きく変わることが読みとれます。3年間の中で子どもたちがそれぞれの将来や自分の生き方について考え、自信をもって進路を選択していけるカリキュラムを設定し、将来の自分を見つめられる生徒を育てていきたいと思えます。

【保護者の方】の回答

全体的に昨年度よりさらに肯定的な回答をいただけています。これは、コロナ禍から通常の教育活動に戻り保護者の方が学校での様子を見る機会が増えてきたことが考えられます。特に質問13「集団の中で仲間やチームワークを大切にし、協力していく機会が設定されている」といった設問に対しては90%を超える保護者の方から肯定的な回答をいただけています。これは体育大会や文歌祭といった行事に子どもたちが一生懸命取り組み、仲間と切磋琢磨し合っている様子を見ていただけた結果であると思えます。また、質問7「挨拶や礼儀を大切にする心をもった生徒を育成している」という設問に対しても昨年度よりも多くの保護者の方から肯定的な回答をいただけています。これについても保護者の方がより学校に来校することが増え、生徒の様子を見ていただける機会が増え

たことが要因であると考えられます。今後も学校教育目標を大切にしながら、人との関わりを大切に
した学校教育を行っていきます。



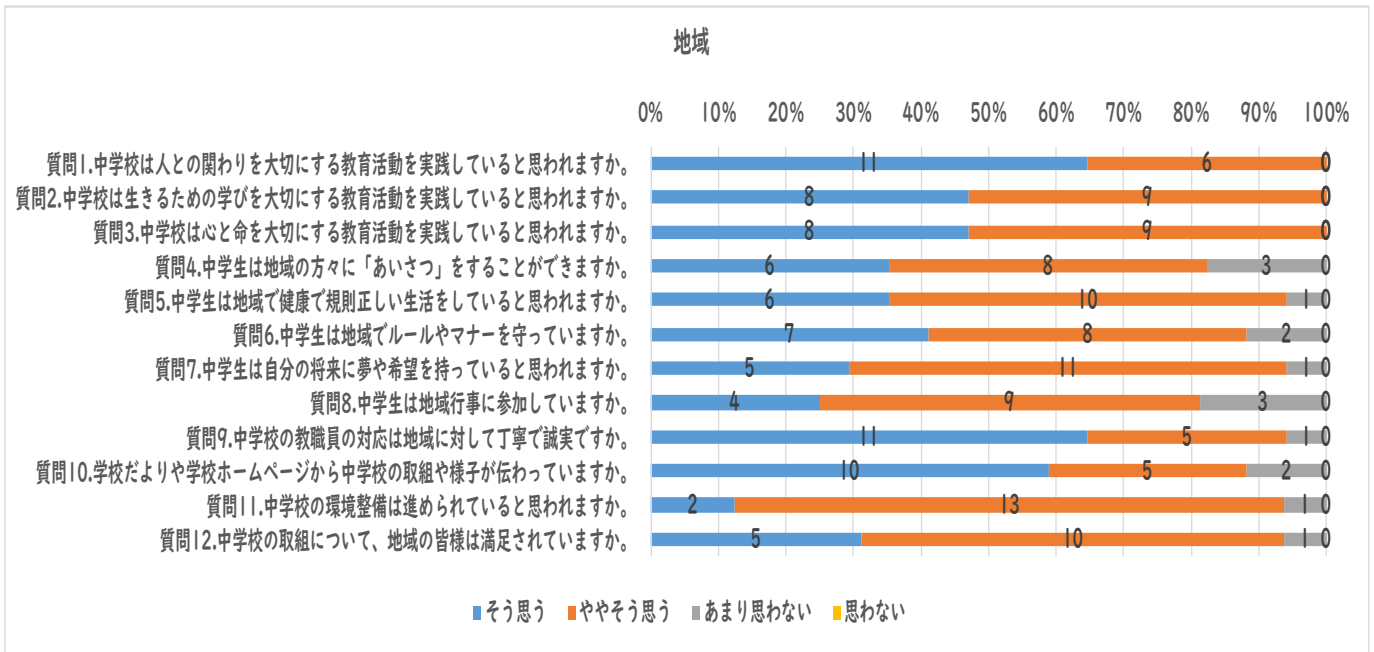
質問22「生徒にとって相談しやすい教員がいる」という設問に対して、80%を超える保護者の方から肯定的な回答をいただいています。また質問15「教員は一人ひとりに向き合い、理解しようとしている」の設問についても80%を超える保護者の方から肯定的な回答をいただきました。日々生徒同士が関わる中で起こる衝突や悩みに対して、話を聞いたり関わったりと教師が丁寧に向き合い、一人ひとりを大切にしたい関わりをしていることを評価いただけたのではないかと考えています。しかしながら、前の二つの質問に対し「そう思わない」との回答も5%ほどいただきました。さらに質問16「一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が行われている」といった設問に対しては肯定的な回答が70%弱となっており、昨年度よりも肯定的な回答は増えたもののまだまだ十分であるとはいえません。今後も一人ひとりの悩みやニーズを把握し、全ての子どもたちが安心して学校生活を送れることを目指して支援をしていきます。

質問23「保護者にとって来校しやすい雰囲気となっている」質問26「PTA やサポーターの会等、保護者主体の活動が充実している」との項目について昨年度より多くの肯定的な回答をいただきました。今後も開かれた学校として、広く地域に学校の様子を公開していくとともに、PTA やサポーター

ターの会といった保護者と地域、子どもたちが一体となった活動を支援していきます。

質問24「施設・設備など学ぶ環境が整っている」の設問については、80%の保護者の方から肯定的な回答をいただいているものの、間もなく40周年を迎える本校では施設面での老朽化が目立ち始め、現在計画的に施設の改修や修繕が行われているところです。また、特別教室などでは一部エアコンのついていない教室があったり特別支援教室が手狭であったりなど今後改善が必要な箇所も見受けられます。今後も子どもたちが安心して教育を受けられる環境を整えられるように努力していきます。

【地域の方】の回答



質問5「中学生は地域で健康で規則正しい生活をしていると思われませんか」という設問に対し、90%を超える肯定的な回答をいただくことができました。また質問6「地域でルールやマナーを守っていますか。」という質問に対しても85%を超える肯定的な回答をいただくことができました。子どもたちが地域の方々に見守られることで、安心して落ち着いた生活を送っている様子が分かります。しかしながら一方で地域の方から子どもたちの下校の様子や放課後の過ごし方についてお電話でご指摘をいただくこともたびたびあります。今後もさらに地域の中での自分たちの在り方について指導をしていくとともに、保護者や地域の方と共に子どもたちを育てていくことができると考えております。

質問10にある学校だよりやホームページ等での情報の発信については90%に近い方から肯定的な回答をいただきました。特に肯定的な意見の中でも「そう思う」に回答していただいた方はおよそ6割を締め、多くの方に情報発信について一定の理解をいただいていることが分かりました。今後も多くの方に学校や生徒の様子が伝わるような情報発信に努めていきたいと思っております。

アンケートへのご協力
ありがとうございました!



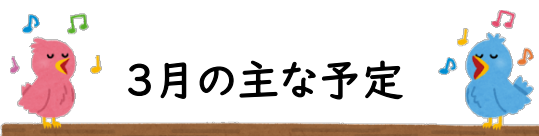
◇「運動のしすぎに注意！」—運動量に見合ったエネルギー摂取を—



運動時間が長い中学生は、運動量に見合ったエネルギー摂取が必要です。でも、食べられる量には限界があるので、摂取できる量にも限界があるということになります。そこで、そのような場合には、エネルギー源となる糖質（穀類、いも類、砂糖など）、脂質（バター、サラダ油など）、たんぱく質（肉、卵たまご、豆まめ製品など）の摂取を優先することを考えましょう。そのうえで残っている胃の容量分でビタミン（野菜など）やミネラル（乳製品、小魚、海藻など）の摂取をしましょう（主食と主菜でエネルギーの必要量を摂取し、野菜や海藻のようなビタミンやミネラルを多く含むものを食べられる分だけ食べる、という摂取方法）。中学生までは、食事だけでは補えないほどの運動量は、オーバークース症候群（※）や貧血、低身長、やせなど、発育や発達に支障をきたす危険性があります。よって、食事だけでエネルギーや栄養素を補える程度の運動量にとどめておくことが大切です。

※オーバークース症候群…使いすぎによる、筋肉・腱・靭帯・骨膜・骨などの炎症の総称

（参考）「理論と実践スポーツ栄養学」（日本文芸社）



3月の主な予定

- 1日（金） 3年卒業遠足
- 8日（金） 卒業式予行 3年生を送る会
- 12日（火） 卒業式
- 15日（金） 1・2年球技大会
- 18日（月） 1・2年百人一首大会
- 19日（火） 1年職業講話
- 20日（水） 春分の日
- 22日（金） 大掃除
- 25日（月） 修了式
- 26日（火） 学年末休業

※4月1日（月）～6日（土）春季休業
※令和6年度始業式は、4月8日（月）です。



【スクールカウンセラー勤務日です!】

3月8・15日（金）

お気軽にご利用ください!

※事前予約が必要です。副校長辰野までご連絡を（TEL784-7311）。

令和5年度の学校だよりは、今回が最終号となります。
本校の教育活動に対する1年間のご理解・ご協力に感謝申し上げます。
来年度も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。